

目次

トップメッセージ	2
研究所紹介	3
特集1 環境マネジメントシステムの統合	4
特集2 多言語統計翻訳システムの環境貢献度評価 端末操作自動化ツール(UMS)の環境貢献度評価	8 9
特集3 厚木市の里山保全活動へ参加	10
2013年度 環境マネジメントシステム	11
サービスイノベーション総合研究所	
概要 / 体制 / 環境方針	12
目標と実績 / 環境負荷の全体像	13
環境教育 / 内部環境監査 / 環境に貢献する研究開発 / 情報公開	14
省エネルギー活動 / 省資源活動 / 生物多様性の保全	15
廃棄物の適正管理活動 / 環境汚染防止活動	16
地域とのコミュニケーション / 職場環境づくり	17
情報ネットワーク総合研究所	
概要 / 体制 / 環境方針	18
目標と実績 / 環境負荷の全体像	19
環境教育 / 内部環境監査 / 環境に貢献する研究開発 / 情報公開	20
省エネルギー活動 / 省資源活動	21
廃棄物の適正管理活動 / 環境汚染防止活動	22
地域とのコミュニケーション / 職場環境づくり	23
先端技術総合研究所	
概要 / 体制 / 環境方針	24
目標と実績 / 環境負荷の全体像	25
環境教育 / 内部環境監査 / 省エネルギー活動 / 情報公開	26
省資源活動 / 生物多様性の保全 / 化学物質の適正管理	27
廃棄物の適正管理活動 / 環境汚染防止活動	28
地域とのコミュニケーション / 職場環境づくり	29
ガイドライン対照表	30

環境レポート2014 発行の目的

本環境レポートはNTTの3つの総合研究所における

①研究開発成果による環境貢献活動

②研究開発の環境負荷低減活動

③地域貢献活動

について、お客様や地域の皆さまに情報を公開することを目的としており、NTTのホームページ(<http://www.ntt.co.jp/RD/environment/index.html>)に掲載しています。

報告対象範囲

サービスイノベーション総合研究所

情報ネットワーク総合研究所

先端技術総合研究所

対象期間

2013年4月1日～2014年3月31日

データの経年変化を示すものや、継続して行っている活動については2013年度以前の情報も記載しています。

参考にしたガイドライン

環境省 環境報告ガイドライン(2012年版)

GRI(Global Reporting Initiative) ガイドライン(第4版)

NTTグループ会社環境報告書作成ガイドライン

記述について

本環境レポートにおいて、「サービスイノベーション総合研究所」はNTTサービスイノベーション総合研究所を、「情報ネットワーク総合研究所」はNTT情報ネットワーク総合研究所を、「先端技術総合研究所」はNTT先端技術総合研究所を示しています。

さらに「横須賀研究開発センタ」はNTT横須賀研究開発センタを、「武蔵野研究開発センタ」はNTT武蔵野研究開発センタを、「筑波研究開発センタ」はNTT筑波研究開発センタを、「厚木研究開発センタ」はNTT厚木研究開発センタをそれぞれ示しています。

ISO14001は、2004年に第2版として発行されたISO14001:2004を示しています。

本環境レポートに掲載した内容は、過去の事実だけでなく、発行時点における計画や将来の見通しを含んでいます。将来の活動内容や結果が掲載内容と異なる可能性があることをご了承ください。